

技術情報

J A全農やまぐち
営農推進部 TAC・営農推進課
(083-988-0681)
平成24年7月17日 発行
第 162号

イネいもち病の防除対策

7月13日付けで病害虫防除所から技術資料が発表され、葉いもちが「やや多」の発生となっています。

つきましては、穂いもちの発生を防止するため、下記及び「発生予察技術資料第2号」を参考に、的確に防除が実施されるよう、ご指導をお願いします。

記

1 今後の予想

- (1) 対象地域 県内全域
- (2) 発生量 やや多

2 防除対策

- (1) 防除時期
 - ・ 粉剤防除における散布適期は穂ばらみ後期と穂ぞろい期である。
 - ・ 粒剤は出穂前に施用する。
- (2) 防除薬剤
別表のとおり

3 留意事項

- (1) イネが軟弱な生育をしており、今後も天候が安定しないと予想されているので、発生状況を十分に確認する。
- (2) 特に移植時期が早い早稲種における上位葉の病斑は、穂首いもちへ感染する危険性が大きいので特に注意する。

平成24年度農作物病虫害発生予察技術資料第2号

平成24年(2012年)7月13日
山口県病虫害防除所

イネいもち病の発生と防除対策

1 発生状況

- (1) 7月9日～11日の巡回調査では、発生ほ場率14.0%（平年12.3%）、発病株率3.1%（平年4.5%）、発病度0.8（平年1.2）で平年に比べやや多かった。
- (2) 6月下旬以降の曇雨天により県内全域で発生が増加しており、一部のほ場では、進展型病斑が散見され、ずり込み症状もみられた。

2 今後の予想

- (1) 対象地域 県内全域
- (2) 発生量 やや多
- (3) 予想内容
 - ア 6月～7月上旬の日照時間は平年に比べ少なく、稲体が軟弱徒長気味になっており、今後の発生増加が懸念される。
 - イ 今後も曇雨天が続くため、穂いもちの伝染源となる上位葉での発病が増加することが予想される。

3 防除対策

- (1) 長期持続型箱施用剤を施用したほ場でも、ほ場を見回り、葉いもちの発生を認めた場合は防除を行う。
- (2) 穂いもちの防除適期は、穂ばらみ後期と穂ぞろい期であり、この時期の防除を徹底する。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 防除時期は、粉剤、水和剤では穂ばらみ後期と穂揃期の2回である。
- (2) 粒剤は出穂前に施用するが、薬剤によって施用時期が異なるので注意する。
- (3) 防除に当たっては、平成24年山口県農作物病虫害・雑草防除指導基準を参照し、使用時期等の農薬使用基準を遵守する（山口県病虫害防除所ホームページ参照）
- (4) 防除を行う場合は、周辺の野菜等に農薬が飛散しないように注意する。



葉いもち発生状況



進展型病斑
(胞子形成数が多い)

いもち病の主要防除薬剤

商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む 使用回数	備考
ブラシン粉剤DL (普)(A,A)	3~4kg/10a	収穫21日前まで	2回以内	散布	フェリムゾン2回以内、フサライド3回以内	・治療的、予防的効果を持つが発病初期の早期散布を主体とする。 ・本剤は穂枯れ、変色米にも適用がある。
ビーム粉剤DL (普)(A)	3~4kg/10a	収71日前まで	3回以内	散布	トリシクラゾール4回以内(但し、本田では3回以内)	・葉いもちの発生が予想される時、又は初発生を見た時直ちに散布する。穂いもちは穂ばらみ後期に散布する。 ・本剤は穂枯れにも適用がある。
カスラブサイド 粉剤DL (普)(A)	3~4kg/10a	穂揃期まで	2回以内	散布	カスガマイシン4回以内(但し、本田では2回以内)、フサライド3回以内	・治療的、予防的効果を持つが発病初期の早期散布を主体とする。
キタジンP粒剤 (普)(B)	3~5kg/10a	葉いもちに対しては初発7日前 ~初発時 穂いもちに対しては 出穂7~20日前	2回以内	散布	IBP3回以内(但し、 粒剤は2回以内)	・かぶれやすい体質の人は取り扱いに十分注意すること。 ・本剤はスミリコガイにも適用がある。
ルーチン粒剤 (普)(A)	1kg/10a	収穫30日前まで	2回以内	湛水散布	イソチアニル3回以内(但し、本田では2回以内)	—
オリゼメート粒剤 (普)(B)	3~4kg/10a	葉いもちには初発の10日前~ 初発時穂いもちには出穂3~4 週間前(但し、収穫14日前まで)	2回以内	散布	プロベナゾール2回以内	・砂質土など漏水の多い水田や養魚田では使用しない。
コラトップ粒剤5 (普)(A)	3~4kg/10a	・葉いもちに対しては初発10日 前~初発時 ・穂いもちに対しては出穂30日 前~5日前まで	2回以内	散布	ピロキロン3回以内(本田は2回以内)	・火山灰土壌では効果が不安定である。
オリブライ 1キロ粒剤(普)(A)	1kg/10a	出穂10日前まで(但し、収穫 45日前まで)	1回	散布	メミノストロピン1回	・稲の葉に褐点を生じる場合がある。特に急激な温度上昇がおこる気象条件下では、葉に褐点を生じやすい。 ・本剤は紋枯病、穂枯れ等にも適用がある。紋枯病には効果が不安定な場合がある。 ・トキアクリレート系(ストロピル系)殺菌剤の総使用回数は箱施用、本田を通して年1回とし、作用機構の異なる剤と体系で使用しない。 ・採種ほどは使用しない。
フジワン粒剤 (普)(B)	3~5kg/10a	葉いもちに対しては初発7~10 日前、穂いもちに対しては出穂 10~30日前(但し、収穫30日前 まで)	2回	湛水散布	3回以内(但し、本田では2回以内)	・本剤はトビイロウンカにも適用がある。
フジワン乳剤 (普)(B)	1000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	3回以内(但し、本田では2回以内)	—
トップジンM [®] ブル (普)(A)	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	散布	チオファネートメ チル3回以内	・本剤は紋枯病にも適用がある。
アミスターエイト (普)(B)	1000~1500倍 100~200リットル /10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	アゾキシストロピ ン4回以内(但し、 本田では3回以 内)	・多発時には効果が劣ることがあるので注意 する。 ・トキアクリレート系(ストロピル系)殺菌剤の総使用回数は箱施用、本田を通して年1回とし、作用機構の異なる剤と体系で使用しない。 ・採種ほどは使用しない。 ・本剤は紋枯病、穂枯れにも適用がある。
ビームゾル (劇)(A)	1000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	トリシクラゾール4回以内(但し、本田では3回以内)	・青なし、野菜類の幼苗にかからないように注意する。
ビームエイトゾル (普)(A)	1000倍、 60~150リットル /10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	トリシクラゾール4回以内(但し、本田では3回以内)	・青なし、野菜類の幼苗にかからないように注意する。
ブラシンフロアブル (普)(A,A)	1000倍、 60~150リットル /10a	収穫21日前まで	2回以内	散布	フェリムゾン2回以内、フサライド3回以内	・本剤はもみ枯細菌病、稲こじ病、ごま葉枯病、穂枯れ、変色米等にも適用がある。